



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直示と参照の観点から見直す日本語の敬語動詞の用法
Author(s)	山下, 好孝
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 34, 47-59
Issue Date	2022-04-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85252
Type	departmental bulletin paper
File Information	03_yamashita.pdf



直示と参照の観点から 見直す日本語の 敬語動詞の用法

北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部 教授

山下 好孝

山下
好孝

YAMASHITA Yoshitaka

Analysis of Japanese Honorific Verbs from Deictic and Contextual Points of View

YAMASHITA Yoshitaka

abstract

In Japanese there are special verb forms which show the speaker's respect to the listener or the person being referred to: respectful verbs and humble verbs. This study aims to analyze the use of these verbs from deictic and contextual points of view.

As for respectful verb forms there are three types: RERU type, NARU type and special types. In deictic situations, where the speaker and the hearer communicate with each other, the RERU type is not preferred. By contrast, in contextual situations where third person respected participants are introduced, RERU type verbs are used.

In the case of humble verbs, there are two types: SURU type and special types. Within special types, two subtypes are recognized: humble form 1 and humble form 2 including MOOSU, ORU, ITASU, MAIRU, ZONJIRU and GOZARU. Humble form 2 verbs are used in deictic situations and only in polite style sentences.

Finally I recommend that at the beginner level of Japanese, O / GO ~ NI NARU and O / GO ~ SURU type verb forms should be avoided and ~ NASARU and ~ ITASU forms preferred.

1 はじめに

日本語の「敬語」は日本語学習者にとって悩みの種である。形式も複雑だし、用法も場面によって変わる。敬語は「絶対敬語・相対敬語」「上・下」「親・疎」「ウチ・ソト」「対者敬語・素材敬語」等の観点から説明されてきた。さらに、敬語がどのような「場」で使われるかという観点も重要との指摘もある（蒲谷 [1999: 56]）。本稿は敬語動詞の用法に限定し、「直示」と「参照」という概念を導入して日本語の敬語動詞を考察する。

まず、直示的なコミュニケーションの場として、話し手と聞き手からなる「二項対立」の発話の場を設定する。次に、参照的なコミュニケーションの場として、話し手、聞き手、さらに第三者の関与する「三項対立」の発話の場を設定する。そして、これらの発話の場の違いを基に、そこで使われる敬語動詞の用法を検討していく。

この研究ノートにおける直示と参照の定義に関しては、以下のように想定する。まず、「話者（わたし）」の「発話時点（現在）」の「発話した場所（ここ）」を基準として、発話者が他に何も介在せず、直接アクセス出来る情報を「直示的（deictic）な情報」とする。それに対して、「参照的（contextual）な表現」となるものは、何らかの参照点（reference point）を介してアクセス出来るターゲットとなる情報と定義する。すでに起こった事態、話題に上がった事柄の中には通常「参照点」が含まれる。第三者に関する叙述も参照的な表現である。参照点を介して表現される対象は、「共視対象、共視映像」と呼ばれることがある。以上のことを熊谷（2011）では次のように図示している。

■図1 話し手・聞き手・共有映像の関係図



熊谷（2011：7）

この図の下の部分（話し手と聞き手の関係）が直示的なコミュニケーションを表し、共視対象を含むコミュニケーションは参照的なコミュニケーションとなる。

敬語の使用に関しても、図の下の部分「対者敬語」の現れる場である。そして共視対象の中に敬語の対象となる人物が現れる部分が「素材敬語」の現れる場であると見なすことができる。さらに敬語の対象としてある人物を「立てる」ということが敬語が使用される条件となる。「対者敬語」に於いては、聞き手が立てる対象となる。「素材敬語」においては文脈から導かれる人物が立てるべき対象となる。

本研究ノートは、日本語教育の立場から外国人日本語学習者を念頭において、敬語動詞の用法を解説していく。

2 尊敬語

尊敬語を使用することによって「その人物を言葉の上で高く位置づけて述べる」（文化庁〔2017：14〕）ことになる。

尊敬語の動詞形には、受け身形と同一の形式（帰られる、起きられる等）、「お／御～になる」の形式（お帰りになる、お調べになる等）、特別な形式（おっしゃる、召し上がる、なさる等）の3種類のものが認められる。菊池（1994）（1996）に倣って、これらを「レル敬語」「ナル敬語」「特定形」と呼ぶことにする。これらを日本語教育で用いられている三つの動詞グループに分けて例示する。基本的に尊敬語の敬語の対象は、その動詞の動作主である主語に限られる。

1) Group1 動詞（五段動詞）尊敬語形

レル敬語：帰られる、持たれる 等

ナル敬語：お帰りになる、お持ちになる 等

特定形：おっしゃる（言う）、ご存じだ（知る）等

ナル敬語を作る際、「お～になる」の「～」に来る動詞語幹にはアクセント（強勢）は置かれない。したがって「お手伝いになる」の「お手伝い」は、動詞ではなく名詞と見なすことになる。「お手伝いする」はGroup1「手伝う」から派生したものではなく、後述するGroup3の動詞に属する。

また、「言う」「終わる」「終える」など母音で始まる動詞では、ナル敬語形が作りにくい。

2) Group2 動詞（一段動詞）尊敬語形

レル敬語：求められる、起きられる 等

ナル敬語：お求めになる、お調べになる 等

特定形：召し上がる（食べる）、いらっしゃる（居る）等

このグループの2拍の動詞（見る、寝る、居る、着る）等ではナル敬語形

が存在しない。ただし、「出る」に関してはもともと「いづ、いづる」のように語頭に「い」がつく3拍動詞であったと考えられるため「お出になる」は使われることがある。

3) Group3 動詞 (変格動詞) 尊敬語形

レル敬語：される (する)、来られる (来る)

ナル敬語：御利用になる (利用する)、等

特 定 形：なさる (する)、いらっしゃる (来る)、見える (来る)

お越しになる (来る) 等

「名詞+する」の敬語形は接頭語「お」または「御」が付く場合が多い。「お」「御」はどのような場合に付加されるのかという複雑な問題を含むため、初級学習者にはナル敬語の用法は避け、「名詞+される／なさる」の組み合わせで提示しておくほうが無難であろう。

日本語教育の場に於いては、特定形のある動詞であれば、それを優先的に使うように指導している。しかしレル敬語とナル敬語の使い分けに関してはほとんど触れられていない。実例として『みんなの日本語初級Ⅱ第2版(スリーエーネットワーク)』の尊敬語の練習問題を提示する。

4) 尊敬語の練習 (1)

例：部長はもう帰りました
→ 部長はもう帰られました。

1) 課長はもう資料を読みました →
2) 部長はさっき出かけました →
3) 社長は来週インドへ出張します →
4) 先生は8時ごろ研究室へ来ます →



5) 尊敬語の練習 (2)

例：先生は新しい車を買いました
→ 先生は新しい車をお買いになりました。

1) 先生は3月に大学をやめます →
2) 先生は飛行機に乗りません →
3) この本は先生が書きました →
4) この料理は先生の奥様が作りました →



特定形を別にして、上の練習問題に見られるようにレル敬語とナル敬語の機能は全く同じなのであろうか。両者に違いがないとするなら、これらの2形式を教える必要がないことになる。しかし、実際には両者の使い方には大きな違いがある。

まずレル敬語は依頼・命令形にしにくいという特徴が挙げられる。

6) こちらからお帰り（になって）ください。

7) ?? こちらから帰られてください。

ただし、レル敬語の依頼・命令形は方言によっては認められているようだ。井上（2017）はレル敬語が西日本で優勢であるとし、西日本でレル敬語の依頼・命令形が使われると報告している。しかし、少なくとも近畿地方ではレル敬語よりハル敬語（食べはる、行かはる）の方が優勢である。そしてレル敬語の依頼・命令形は東日本や北海道でも見られる。例えば北海道出身の作家、桜木紫乃氏の小説には以下のような表現がある。

8) ゆっくり休まれてください。（『無垢の領域』）

同氏は別の箇所ではナル敬語の命令形も使っている。

9) どうかお体一番で、しっかりお休みください。（『無垢の領域』）

ただし、何人かの北海道出身者に問い合わせてみたが、「休まれてください」は不自然であるとの回答が多かった。

さらに菊池（1996：38）によるとレル敬語の進行形は「あまりこなれていない」との記述がある。

10) 「読んでいる」の尊敬語形

①お読みになっていらっしゃる

②読んでいらっしゃる

③お読みになっている

④?? 読まれている

しかし、先日、将棋の実況中継をネットテレビで見っていたら、棋士の長考中に、次のような発話が解説の別の棋士からあった。

11) (藤井聡太三冠は) かなり、考えられていますね。

すると以下のレル敬語とナル敬語の違いはどのように考えられるだろうか。

12) かなりお疲れになっていますね。

13) かなり疲れられていますね。

まず考えられることは、面と向かって相手と話しているときはレル敬語は使いにくいということであろう。つまり対者敬語としてはふさわしくないということである。したがってレル敬語は依頼や指示には使いにくい。一方、敬

意の対象に関する叙述ではレル敬語が使われる。

14) イエスは私たちの罪のために死なれた。

この文はキリスト教関係のウェブページにある一節である。通常「死ぬ」のナル敬語は存在しないと言われている。

15) ×お死になる (→お亡くなりになる、亡くなられる) 文化庁 (2007 : 25)

しかしイエスの生涯の記述ではレル敬語で表すことが可能である。すなわち素材敬語としてなら「死ぬ」のナル敬語は使われるということである。

直示的な対者敬語は、参照的な素材敬語に比べて敬度が高いと考えられる。尊敬の対象を目の前にしたときの方が、尊敬の態度が表出されやすいのは自然なことである。菊池 (1994 : 118) でも以下のような記述がある。

16) ナル敬語「お／ご～になる」のほうは、これから見ていく他の多くの敬語と同レベルの、敬語としてはごく普通レベルの敬度なのに、レル敬語のほうが、それらに比べてかなり敬度が軽いのである。

一方、複合動詞の場合はナル敬語にしにくいものがある。菊池 (1994) では次のようなものがその例として挙げられている。

17) 探し出す、投げ捨てる、起き上がる、読み進める 等

複合動詞は前部要素で行為を、後部要素で前部要素の結果を表すことが多く、叙述文によく使われるという特徴がある。そのためレル敬語の形式で素材敬語として使われることが多いのであろう。

このナル敬語とレル敬語の特性は、いわゆる「所有者敬語」でも同様の傾向を示す。所有者敬語というのは、敬意の対象が動詞の主語ではなく、主語の所有者となる人物になっている尊敬語のことである。ここでは後で見る「所有者謙譲語」と区別するため「所有者尊敬語」という名称を用いる。

18) お子さんがお生まれになったのですか？

19) ?? お子さんが生まれられたのですか？

20) (先生の) 絵が賞をお受けになったのですか？

21) ?? (先生の) 絵が賞を受けられたのですか？

所有者尊敬語においても直示的な発話の場ではナル敬語を用いる方が自然である。

以上のようなことから、『みんなの日本語初級Ⅱ』に出ている別の練習問題

を検討してみる。結論的に以下の練習問題 (3) は若干不自然で、練習問題 (4) のほうが自然だということになる。

22) 尊敬語の練習 (3)

例：きのうの 新年会に 出ましたか (はい)
→ きんのうの 新年会に 出られましたか。
……はい、出ました。

1) お花見に 行きましたか (はい) →
2) 夏休みは お国へ 帰りますか (いいえ) →
3) どのくらい 休みを 取りますか (2 週 間) →
4) いつ 大阪に 引っ越ししますか (来 週 の 日曜日) →



23) 尊敬語の練習 (4)

例：いつ 佐藤さんに 会いましたか (きのう)
→ いつ 佐藤さんに お会いに なりましたか。
……きのう 会いました。

1) バス停の 場所は わかりますか (いいえ) →
2) 疲れましたか (ええ、ちょっと) →
3) 日光では どんな 所に 泊まりましたか
(古い 旅館) →
4) どちらで その かばんを 買いましたか
(ベトナムの 空港) →



以上、直示的な発話の場ではナル敬語が、参照的な発話の場ではレル敬語がふさわしいということを観察した。尊敬語動詞の特定形に関してはどちらの発話の場でも使用される。

以下の節では、謙譲語についても同様の分析を行う。

3 謙譲語

前節で見た尊敬語は「立てるべき人物」を主語として高める。それに対し、謙譲語は話者である主語を低めるという性格がある。尊敬語の時と同じように、動詞グループによる形式の違いをまず見ておく。ここで「お～する」の形を取るものを「スル謙譲語」と名付け、特別な形式を取るものを「特定形」とする。

24) Group1 動詞 (五段動詞) 謙譲語形

スル謙譲語：お持ちする、お聞きする 等

特定形：参る（行く）、伺う（聞く）、申す（言う）、いただく（もらう）等

スル謙譲語を作る際、「お～する」の「～」に来る動詞語幹にはアクセント（強勢）は置かれない。したがって「お手伝いする」の「お手伝い」は、動詞ではなく名詞と見なすことになる。「お手伝いする」はGroup1ではなく3に属する動詞で「手伝う」から派生したものではない。

また、「言う」「終わる」など母音で始まる動詞では、ナル敬語形の場合と同じようにスル謙譲語が作りにくい。

25) Group2 動詞（一段動詞）謙譲語形

スル謙譲語：お調べする、お借りする 等

特定形：いただく（食べる）、おる（居る）等

ただし、2拍の一段動詞（見る、寝る、居る、着る、出る）等ではスル謙譲語が存在しない。

26) Group3 動詞（変格動詞）謙譲語形

スル謙譲語：御案内する、お掃除する お手伝いする 等

特定形：いたす（する）、参る（来る）、掃除いたす（掃除する）等

「名詞＋する」の謙譲語は接頭語「お」または「御」が付く。尊敬語の場合と同じく、「お」「御」がどのような場合に付加されるのかという複雑な問題がある。そのため、初級学習者にはスル謙譲語の用法は避け、「名詞＋いたす」の組み合わせで提示しておくのが無難であろう。たとえば「電話いたします」などの形である。

基本的に「立てる相手」が主語であった尊敬語とは異なり、謙譲語では「立てる」相手が動詞の補語の部分に存在しなければならない。そして基本的に動詞の主語は話者となる。主語以外の補語とは「を に から と ために」などの助詞に前置される名詞部分を指す。立てるべき人物を補語に含むことが謙譲語使用の必要条件となる。もしそのような補語が前提とされない場合、謙譲語表現は非文法的となる。

27) 先生を案内します → 先生を案内いたします

28) 先生に聞きます → 先生にお聞きします／伺います

29) プールで泳ぎます → *プールでお泳ぎします（*は不適格文であることを示す）

30) 音楽を聴きます → *音楽をお聴きします

また、尊敬語の場合と同じように、補語の名詞の所有者を立てる謙譲語の用法も存在する。これを「所有者謙譲語」と呼ぶことにする。

31) お名前をお呼びします。

32) お宅に参ります／伺います。

33) (食事の前に)

〔あなたの作ってくださった料理を〕いただきます。

さて、「立てるべき人物」を補語に含む謙譲語動詞は、その人物に対する恩恵を含意する場合が多い。ただし、「借りる」「尋ねる」「～に聞く」などは、補語にある人物に敬意を表しながらも、その恩恵が話者におよぶ場合の用法で用いられる。日本語初級教科書『みんなの日本語初級II』で、謙譲語の練習問題を見てみよう。

34) 謙譲語の練習 (1)

例：手伝います → お手伝いします。

1) かばんを 持ちます →

2) 予定を 知らせます →

3) 駅まで 車で 送ります →

4) 本を 借ります →



35) 謙譲語の練習 (2)

例：きのう 先生のお宅へ 行きました
→ きんのう 先生のお宅へ 伺いました。

1) 奥様に 会いました →

2) おいしい 料理を 食べました →

3) ご家族の 写真を 見ました →

4) おもしろい お話を 聞きました →



34) の練習問題は対者敬語的（直示的）な発話の場で、35) の練習問題は素材敬語的（参照的）な発話の場での謙譲語を取り上げている。尊敬語の場合と同じく、特定形がある謙譲語ではそれを使う方が望ましいのであろうが、スル謙譲語が可能な場合はそれを使っても問題ない。

36) お手伝いします — お手伝いいたします

37) お借りします — 拝借します

38) お会いしました — お目にかかりました

39) お聞きしました — 伺いました／拝聴しました

では、謙譲語動詞は、すべてが直示的な用法と参照的な用法を有するのであろうか。

謙譲語動詞を使用する際、その動詞の補語に敬意の対象、すなわち立てるべき人物の存在が含意されていなければならなかった。その意味では謙譲語動詞には参照すべき人物の存在が前提とされていなければならない。つまり「参照点」になる「立てるべき人物」が必要とされるのである。

しかしながら、次のペアの文例はどうであろうか。

- 40) a. 昨日、先生のお宅に伺いました／参りました。
b. 昨日、弟の家に *伺いました／参りました。
- 41) a. [私はあなたに] 先週も申し上げました／申しました。
b. 私は父に *そう申し上げました／そう申しました。
- 42) a. ○○先生のお説を 存じ上げております／存じております。
b. その珍説を *存じ上げております／存じております。

上記の謙譲語動詞が使われた文の中で非文となるものは、敬意の対象となる人物がその動詞の補語になっていないものである。しかし、たとえ敬意の対象が文脈に含意されていなくても使用できる謙譲語動詞が存在する。これらは通常「謙譲語Ⅱ」とか「謙譲語B」と呼ばれる一群の動詞である。

43) 謙譲語Ⅱ：参る、申す、いたす、おる、存じる、ござる

これらの動詞の特徴は「自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの」（文化庁〔2007：18〕）と定義されている。すなわち会話での聞き手、書き言葉での読み手を「敬意の対象」と想定した謙譲語で、敬体（～ます、です）の文体でのみ生起する。

言い換えると「対者敬語」の機能を持つ謙譲語であり、直示的な、すなわち二項対立の発話の場で使われる謙譲語である。その場合、敬意の対象は聞き手に向けられることになる。

これら謙譲語Ⅱには「素材敬語」としての用法もあるのだろうか。次の文で検討してみる。

- 44) a. 私は、昨日、山田先生のお宅に伺ったと妻に申しました。
b. ?? 私は、昨日、山田先生のお宅に参ったと妻に申しました。

謙譲語Ⅱは文体を敬体から常体（普通体）に替えると非文となる。謙譲語Ⅱは必ず直示的な二項対立のコミュニケーションの場で現れる形式なのであり、対人的なモダリティを有するモダリティ要素であるとも考えられよう。

以上述べてきたように、主語が話者に限られる謙譲語にも直示的な謙譲語Ⅱと敬意の対象を参照点として補語の中に持つ参照的な謙譲語Ⅰが存在す

る。これら2種類の用法は、主語が聞き手に限られる尊敬語にも見られる現象である。

4 謙譲語の丁重語化、美化語化

今までの議論で従来言われてきた「対者敬語」「素材敬語」という概念を直示と参照の観点から分析し直してみた。尊敬語にも謙譲語にも、直示的な二項対立のコミュニケーションで使われる用法と、参照的な三項対立のコミュニケーションで使われる用法が認められた。二項対立の下での敬語は、聞き手にあたる人物を「立てる対象」として設定した。三項対立の下での尊敬語は動作主を「立てる対象」とした。三項対立の下での謙譲語は動作の補語の中に「立てる対象」の存在を成立条件とした。

ところが「立てる対象」である人物が認められない謙譲語Ⅱの例がある。

- 45) 1番線に特急が入ってまいります。
- 46) 右に見えますのは富士山でございます。
- 47) この花はポルトガル語でorquídeaと申します。
- 48) オリンピック、パラリンピックは無事終了いたしました。
- 49) 館内清掃はすでに終わっております。

これらの例文は、謙譲語Ⅱの「自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁重に述べるもの」という機能が変化し、単に「行為・ものごとなどを丁重に述べる」という機能に特化したのだと考えられる。

「ござる」という動詞を例にとって考えてみよう。「ござる」は元々「いる」の尊敬語であり、以下のような方言の例が現在でもみられる。

- 50) ○○さんがござった。
- 51) ○○さんはござらん。

これらは名古屋出身者の情報であるが、敬体になっていない点も注目に値する。

しかし、現代日本語では話者を主語とする謙譲語として次のように使われている。

- 52) サザエでございます。
- 53) そのことは十分検討してございます。

以上は「～である」「～ている」の謙譲語の用法だが、モノを主語とする「～がある」の丁重語としての用法もある。

54) 右手にポストがございます。

「ござる」という動詞は常に敬体（～ます・です体）で用いられ、聞き手に対する敬意を伴う。そこから謙譲語→丁重語という機能の拡張が起こっていると考えられる。しかし、「ござる」は自分側のことに関しては丁重語となるが、聞き手側のことには使いにくい。

55) * 先生は関西出身でございますか？

56) ?? これは先生の傘でございますか？

「あげる」という動詞は現在では謙譲語であるとは受け取られていないが、語源的には「やる」の謙譲語である。ところが現在では「あげる」が普通の動詞となり、「やる」の方が品位を下げた動詞のように扱われるようになった。いわば謙譲語の美化語化である。

「頂戴する」という「もらう」の謙譲語は、さらに大きな変化を被っている。「頂戴する」の主語は話者、もしくは話者寄りの人物に限られるが、日常会話では「くれる」の意味で使われることがある。

57) お母さん、お小遣い頂戴！

語形の短縮による意味の変化は尊敬語においても起こっている。

58) 少々お待ちください。

59) お待ち！

このような「待遇表現」の敬度の変化は日本語の敬語学習をますます複雑なものにしていると言えよう。

5 おわりに

敬語の使用は難しい。特に謙譲語の使用に不適切なものが多く存在する。尊敬語にしても謙譲語にしても「ある人物を立てる」という点では共通している。敬語の使用はそのことが動機付けとなっているが、尊敬語でその人物を高め、謙譲語で話者を低めるというメカニズムの違いが不明瞭になっているのではないだろうか。

例えば、以下のような誤用はかなりの範囲で観察できる。

60) ○○先生が来ていただきました。拍手でお迎えください。

「いただく」は本来謙譲語であるため、「立てるべき人物」が主語になることはない。この例では謙譲語が尊敬語のように使われている。一方、敬語の中には誰が主語なのか分かりにくいものがある。

61) (新千歳空港の張り紙)

お客様はここから先、お入りいただけません。

極端に考えると、動詞の通常形を敬語形に替え文体を敬体にすれば、それだけで聞き手に対する敬意を表すと短絡的に考え、尊敬や謙譲という区別が曖昧になっているのかも知れない。

62) 申されます、おられます、お持ち帰り出来ます、お持ち帰りしますか

このような誤用は日常生活の多くの場面で目にし耳にする。よりスムーズな日本語コミュニケーションのために日本語母語話者、日本語学習者に関係なく敬語のメカニズムを学ぶ必要があるように思う。

参考文献

- 井上史雄 (2017) 『新・敬語論』、NHK出版
 蒲谷 博 (1999) 「『敬語』を乗り越える」、『月刊言語』 Vol.28、No.11、pp52-59
 菊池康人 (1994) 『敬語』、角川書店
 菊池康人 (1996) 『敬語再入門』、丸善ライブラリー738
 北澤 尚 (2005) 「変容する敬語」、『学芸国語国文学』 37、東京学芸大学国語国文学会、pp1-14
 熊谷高幸 (2011) 『日本語は映像的である』、新曜社
 文化庁 (2007) 『敬語の指針』 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/keigo_tosin.pdf
 山下好孝 (2016) 「直示と参照に基づく日本語指示詞の再検討」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 23巻、pp51-62 <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/62975>
 山下好孝 (2020) 「直示と参照に基づく日本語助詞「は」と「が」の考察」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』 30巻、pp91-103
<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/77571>

日本語教科書

スリーエーネットワーク (2013) 『みんなの日本語 初級II 第2版』

